

一般質問



あべ祐美子 議員 (民・改)

学校教育について

①教育改革プラン21において、教育の変化の客観的指標となる学力の定着状況は、①いじめや不登校などの問題行動の件数は、②公立中学校への進学割合は、③これらの指標だけでは測れない、成果や課題などは、④品川区独自の取り組みである市民科への評価は、⑤今後の展開等は、⑥保護者や地域が学校運営に参画する学校協議会の設置、いわゆるコミュニティスクールについて⑦過去に検討した経過や区の考えは、⑧今後の課題や期待する成果は、⑨小中学校の学習活動へのタブレット端末導入について、早急に検討すべきだと考えるが、⑩これまでの検討内容は、⑪今後の導入の方向性は、⑫特別支援教育の場で重点的に研究や実践を進めては、

教育次長 ①小学校では、平成19年度は都の平均とほぼ同じだった正答率が、24年度は、算数では38ポイント高くなった等だ。中学校はほぼ都

の平均にとどまっておられ、今後の課題と考える。①11年度と23年度のいじめ件数の比較では中学校は43件の減少等だ。不登校は、中学校は12年度と23年度では43件の減少等だ。②7割前後で推移している。③成果は学校の特色づくりが進んだことなどだ。地域の声を生かした施策展開などに課題が残る。④道徳や特別活動の枠で分断される学習を統一的に捉え、指導できることだ。⑤品川の独自性を大切に、推進する。⑥今後、研究していく。⑦先進校の視察や議論を重ね、学校現場のニーズに応じた整備を計画している。⑧特別支援教育部会等から提出された様々なアイデアを検討し、準備を進めていく。

子育て支援策について

①子ども・子育て会議について②役割は、③メンバーは、④保護者や子育て事業の現場の方も委員に加えては、⑤若い保育士が退職する例もあると聞か⑥採用5年以内の退職職人数は、⑦原因等は、⑧研修の充実やメンタル面のサポートをしては、⑨非常勤職員への⑩資質向上策は、⑪保育系学生等の受け入れをしては、⑫幾つかの区立保育園を基幹園とし、管理職の園長を置いては、⑬保育ママの利用要件に病児等を加えては、⑭公園に冒険遊び場を作っては、

①子育て支援に関する事業従事者、保護者のほか、公募も行う予定だ。②22年度4名、23年度8名、24年度9名だ。③結婚に伴う転居等で、一定の退職者はやむを得ないとの認識だ。④新規採用者一人ひとりに先輩職員をつけて指導等が受けられる仕組みを設け、更に園長経験者による巡回面談を実施している。⑤日々のOJTで一定の水準維持を図っている。⑥関係機関の意見を聴取していく。⑦考えはない。⑧必要があれば見直す。⑨一定規模の公園を改修する時に検討していく。

まちづくりについて

①都バスの品川営業所から大井町までの回送バスを営業路線とするよう、都に働きかけては、②御殿山小学校の西にある交差点への信号機設置について、警察との協議は、③大崎駅周辺の再開発では、④拡幅する道路に自転車レーン等を設けては、⑤地域交流施設が予定されているが、整備に関する考えと進捗状況、今後の検討スケジュールは、

区長 ①設置予定の地域公共交通会議の中で、議論していくべきと考える。②品川警察署からは、警視庁に対して設置依頼をしていると聞いている。③警視庁と協議を図り、自転車レーンの設置を検討していく。④再開発組合から地域貢献施設として提案されたもので、内容等は再開発組合側で今年度末を目途に検討を進めている。区としては、地域に開かれた施設となるよう再開発組合と協議を進める。

①生活道路における安全対策は、②交通事故への認識は、③警察庁は、区域を定めて時速30キロ以下の速度規制を実施する、ゾーン30の導入により、生活道路の安全対策の推進を図っている。通学路を中心に、ゾーン30の導入を早急に図るよう警視庁へ働きかけては、④ゾーン30導入の際には、学校や地域住民等と意見交換を行い、道路標示や狭窄等を効果的に活用しては、

防災まちづくり事業部長

①交差点の改良等に加えて、緊急合同点検結果を踏まえた対策を、順次行っている。②安全対策の重要性は認識しており、今後も警察や地域住民等と連携し、安全対策に努める。③現在、警視庁はゾーン30の導入に向け、エリアを検討しており、今後、地域住民等の意見を伺いながら進めると聞いている。区も交通安全施設の整備を行い、警視庁との連携を図っていく。



あくつ広王 議員 (公明)

生活道路・通学路の安全対策について

知し、耐震化を促進しては、②区内の特定緊急輸送道路の沿道建築物の耐震化は進んでいない現状がある。区独自の乗せ助成をしては、

都市環境事業部長 ①平成23年度が11件、24年度が12件、今年度が5月末時点で5件だ。②耐震診断に先立ち、診断実施の合意形成への助言等を行い、診断後は改修工法の提案など、総合的アドバイスをを行っている。制度を周知し、改修につながるよう努めていく。③実績や費用対効果、国の動向を見極めながら検討していく。

高層建築物の建設に伴うビル風対策について

①港区では、最も基本的な防風対策は建物の形状の工夫で、その補完として樹木を植える防風植栽の配置が有効だとの考えから、ビル風対策要綱を策定した。マンション建設段階での、開発事業者の防風対策への意識向上などに有益な施策だと思いが、品川区でもこうした防風植栽の管理に特化した制度を導入しては、②仙台坂の高層マンション周辺の風環境の変化に伴い、何らかの手段がとれないのかとの要望があがっているが、所見は、③風環境の保護につい



さかなクンの夏祭り in しながわ水族館

て高い意識を持って臨んで、

都市環境事業部長 ①都の環境影響評価条例の対象とならない多くの高層建築物は、風洞実験等の検証がなされずに建築されており、また道路等の整備により風環境が変わる可能性もあることから、区としては地域の実情を踏まえ、個別案件ごとに対応していく方が、効果があると考えます。②地域の方の相談を受け、事業者に改善を求める等の対応を行っている。③風環境の変化による影響については、どのような対応が可能なのか区としても研究していく。

品川区のブランド力強化と観光振興について

①区のブランドイメージ向上と観光施策にプロフェッショナルとして取り組んでいく。②品川がめざす都市型観光は、区民一人ひとりが観光大使の意気込みで、まちのよさを自慢し、来訪者をもてなすまちづくりだ。社会貢献団体の活動にも期待をし、連携も考えている。観光大使の起用も効果的と考え、しかるべき対象とタイミングが合った時には実現したい。

ヨナルのノウハウ、若い感性等を生かせる仕組みを構築しては、②品川を愛してくださっている影響力のある方などに、観光大使等を委嘱しては、③観光大使の名刺に、しながわ水族館など区内公共施設の割引券等を付帯すれば、話題性もあり、区への来訪を促すことになるのでは。

区長 ①外部のノウハウも活用し、広域的な集客と区のブランドイメージの向上を図っていく。②品川がめざす都市型観光は、区民一人ひとりが観光大使の意気込みで、まちのよさを自慢し、来訪者をもてなすまちづくりだ。社会貢献団体の活動にも期待をし、連携も考えている。観光大使の起用も効果的と考え、しかるべき対象とタイミングが合った時には実現したい。